

凛々しく次のステージへ ～第116回卒業証書授与式～

3月24日（火）、第116回卒業証書授与式を挙行いたしました。

今年度の卒業生は5名。卒業証書を壇上で受け取る姿は、どの子も背筋が伸び、凛々しい表情で堂々としています。小学校生活最後にふさわしい、下級生の見本となる立派な姿でした。

卒業生による“お別れの言葉”には、思い出多い6年間の出来事とともに、自身の成長を見つめながら、支えてくれた家族や地域、職員への感謝の気持ちがにじみ出ているものでした。そして、後を託す下級生たちへの励ましを、一語一語に思いを込めながら伝えました。

在校生からは、この1年間の卒業生との個別の思い出を言葉にします。学校生活では、学年の壁はなく、全校で仲よく遊び、過ごしてきた子どもたちです。卒業生のこともよく見て親しみを持っている下級生の言葉は、その一言一言に、その時の情景がありありと思いを描かれ、胸にぐっとくるものがあつたようです。

全校児童30人で歌う最後の校歌。みんなで声を合わせて高らかに歌い上げました。

そして、いよいよ退場の時。卒業生へのお祝いの気持ちと、新たな門出へのエールの気持ちが込められた大きな拍手の中、卒業生は、体育館を後にしました。



卒業生たちが、先週職員一人一人に自分たちが記したメッセージを届けてくれました。私に届けられたメッセージには、『集会のときに、学校教育目標を言ってくれたおかげで、毎日忘れずに学校教育目標に取り組むことができました』と書いてくれていました。本校がめざす姿を、教職員のみならず、子どもたちもしっかり受け止めて1年間を過ごしてくれていたことが、大変うれしく、ありがたく思いました。

4月からいよいよ中学校生活が始まります。初めてのことばかりで戸惑うこともあるでしょうが、これまで人との関わりの中で培ってきた「学び合う姿」「大切

にし合う姿」「きたえ合う姿」が、中学校生活のさまざまな場面で生きることでしょう。自信をもって、夢実現への大きな一歩を踏み出してほしいと思います。職員一同、応援しています。

「土がたくさん上がっていたから、きれいにしようと思った」

～自ら気づき、実践する姿が・・・～

先週の昼休みのこと。児童昇降口の横を通りかかると、3年生の一人が、箒を持ち、昇降口を掃いています。「土がたくさん上がっていたから、きれいにしようと思った」とのこと。見ると、それまでに運動場で過ごした子どもたちの靴裏についていた土が、確かにたくさん落ちています。この3年生は、外に遊びに行かず掃除を優先し、昇降口をきれいに掃いてくれていたのです。



誰から言われたわけでもなく、自ら気づき、一人黙々と清掃している3年生。実に素晴らしく、その姿は、学校教育目標の主旨の自ら考え実行する姿そのものであり、誰もが大いに学ぶべきものがあります。

時代に合わせた豊かで柔軟な発想力と 変革を怖れない強さを持って

3月26日（木）、修了式を迎えました。まずは、この1年間、子どもたちに事故が無く、無事にこの日を迎えられましたことに安堵しています。

さて、今年度「自ら考え挑戦し ともに高め合う 北杵築っ子の育成」を学校教育目標に据え、さまざまな教育活動を通し、その実現に取り組んでまいりました。

安易な前例踏襲に終始することなく、創造し、挑戦していく営みの中で、子ども自らが発案し、失敗を恐れず実行していく過程を重視した取組です。

例を挙げれば、運動会の応援で、河野誠先生の「自分たちの色を出していこう」の声かけをきっかけに、各組それぞれに、自分たちならではの応援について、考えを出し合い、練習・工夫・見直しを重ねました。その結果、前年度とはまた一味違った見ごたえのあるすばらしい応援となったことは言うまでもありません。

これから社会はますます変化していきます。その中で生きる子どもたちには、時代に合わせた豊かで柔軟な発想力と、変革を恐れれない強さを持った“自ら考え挑戦できる”人に成長してほしいと願っています。

と同時に、我々教職員も、柔軟な発想力で、子どもたちの学びや成長のために、よりよい教育活動を模索し進めていかなければと、改めて思ったところです。

最後になりましたが、この1年間の保護者の皆様・地域の皆様の本校の教育活動への温かなご支援・ご協力に対しまして、心より感謝申し上げます。大変ありがとうございました。